
ツール(1)

たこ焼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツール（１）

【Nコード】

N7660A

【作者名】

たこ焼

【あらすじ】

犯罪が今より悪化した今。僕の世界では、僕が生まれる数十年前から、護衛用としてある道具 ツールが使われるようになった。ツールは人間の形をしたロボットで、凡庸型、完全護衛型、補佐型、介護型などたくさんの種類がある。それはそれぞれに自我を持って主人となる人間と一緒に生活してる。ぼくはそのツールのうち、凡庸型を持っていて、生まれたときからずっと一緒に暮らしている。SFコメディー

第一話 デストの怪我の理由〜幸せな朝の会話〜（前書き）

ロボットが出ているからSFという観点でジャンル登録をしています。話自体はギャグで、戦艦が出てきて宇宙でドンパチやるというものではありません。

第一話 デストの怪我の理由／幸せな朝の会話／

犯罪が今より悪化した今。

僕の世界では、僕が生まれる数十年前から、護衛用としてある道具

ツールが使われるようになった。

ツールは人間の形をしたロボットで、凡庸型、完全護衛型、補佐型、介護型などたくさんの種類がある。それはそれぞれに自我を持って主人となる人間と一緒に生活をしてる。

ぼくはそのツールのうち、凡庸型を持っていて、生まれたときからずっと一緒に暮らしている。

「おきなさい。伍南^{イツナ}」

母さんが笑顔でぼくを起こす。ぼくは目を覚まし、体をゆっくりと起こして、首を左右に降った。

すっかりとしない目で、また母さんを見ると目元に手を当てて、はつきりしない意識で訪ねた。

「デストは？」

「デストちゃんは下に居るわよ」母さんは長い髪を背中に払う「体に傷を負っていたけど、昨日なにかあったの？」

「昨日？」

ぼくは首を傾げた。

昨日はなにもなかったと思うんだけどなあ。どうしたんだろ、デスト。

制服に着替えて、下に降りる。すると母さんに教えてもらった通り、ぼろぼろのデストが充電をしながらぼくを待っていた。なんとなく不機嫌だ。

ぼくは席に座ると、デストを見る

「デスト。どうしたんだ。なんか不機嫌そうじゃないか」

デストは顔を横に向けて、銃をいじりはじめた。答える気はないようだ。

なんでそんなに怒ってるのだろうか。

ぼくが五月蠅いぐらいにデストに聞いていると、彼は顔を上げてにらみつけるようにして見て言った。

「おしえてほしいか」

なんでにらみつけてるのか、僕は不思議におもったけど頷いた。

「うん。おしえて。」

「お前にやられたんだ」デストはぼくを力いっぱいにらみつけ、いつもよりも低い声で静かに言った「お前を起そうとしたら、蹴られ、殴られ、ひつかかれ、終いには目覚まし時計を投げつけた！おれっはその間。お前を起そうと、必死になって30分格闘した」デストは立ち上がり、大きな声で僕に言った「だけど！お前は起きなかった。おれが30分。痛い思いをして、あんたを起そうと格闘したのにもかかわらず！！それで、どうしたんだ。だと！？ふ・ぎ・ける・な・だ！！」

ぼくはまったく記憶になかった。

「知らないよ。そんなこと」

「ふん。そういうとおもったさ」

デストは椅子に座り、足を組んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7660a/>

ツール(1)

2010年10月9日23時16分発行